



2019日本自動車殿堂 歴史遺産車

日本の自動車の歴史に優れた足跡を残した名車を選定し
日本自動車殿堂に登録して永く伝承します

Cars that blazed the trail in the history of Japanese automobiles are selected,
registered at the Hall of Fame and are to be widely conveyed to the next generation.

いすゞエルフ TL151型

ISUZU ELF TL151

いすゞエルフ



小型トラックのディーゼルエンジン化を決定づけた初代エルフ。1959年にガソリンエンジン搭載車として登場したが、デビュー翌年にDL200型 2リッターディーゼルエンジンが追加された。

いすゞエルフ TL151型(1960年)主要諸元

全長	4690mm	名称	DL200型ディーゼルエンジン
全幅	1690mm	型式	水冷 4 サイクル直列 4 気筒・予燃焼室式
全高	1985mm	ボア×ストローク	79×102mm
ホイールベース	2460mm	総排気量	1999cc
トレッド(前)	1380mm	最大出力	52ps/3600rpm
トレッド(後)	1380mm	最大トルク	12kgm/2000rpm
車両重量	1490kg	荷台長	3020mm
タイヤサイズ	7.00-15	荷台幅	1580mm
最小回転半径	5.3m	荷台高	450mm
最高速度	85km	最大積載量	2000kg
乗車定員	3人		



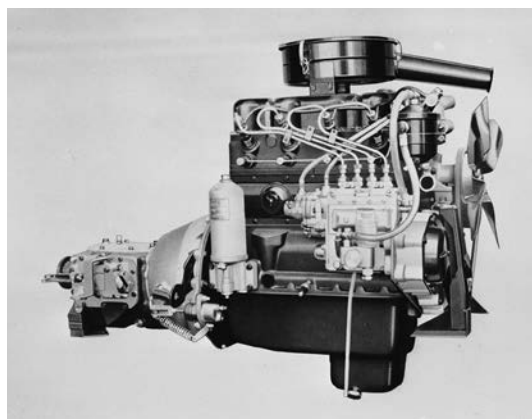
エルフは1970年から30年連続で同クラスで国内登録台数シェアナンバー1を達成した。写真は初代エルフの生産5万台のラインオフ式の模様。



広いキャビン、良好な視界、3人乗りベンチシートが好評を博した。



ロングホイールベース車、リアダブルタイヤモデル、ダンプなどバリエーションも拡大された。写真は低床式モデル。



DL200型エンジンは2リッターで最高出力52PS、最大トルク12kgmを発揮した。

エルフの誕生と発展

いすゞエルフは、日本の狭い道路事情で「最も効率よく荷物を運ぶ」という目的を達成するため、1959年にいすゞ自動車初の本格キャブオーバー2トントラックとして誕生した。当時すでにダイナ(トヨタ)、キャブオール(日産)といった車両が発売されており、エルフは後発であったが、広いキャビンと良好な視界、3人乗りのベンチシートなど、キャブオーバートラックとしての効率的なレイアウトの追求と、耐久性・経済性に優れたディーゼルエンジンの採用により、市場の高い支持を得て、ベストセラー小型トラックとしての基礎を確立した。

デビュー当時のパワートレインはGL150型1.5リッターガソリンエンジン(60PS、11kgm)と4速トランスミッションの組み合わせで、最高速度100km/hを誇っていた。翌1960年、2トン積クラスのトラックに求められるパワーとトルクを実現する目的でDL200型2リッターディーゼルエンジン(52PS、12kgm)が追加された。当時としては十分なパワーを有したものであり、このエンジン搭載車が発売されてから大幅に販売台数が伸び、エルフの快進撃が始まった。これにより小型トラックのディーゼルエンジン化が決定づけられた。また、いすゞのディーゼルエンジンの耐久信頼性は市場から高く評価され、廃車車両の中古エンジンが船舶用に転用されるなど、国内外で使用されるケースも多かった。

1964年には、普通車枠の車両となるロングホイールベース車や、現在ではメジャーなリアダブルタイヤなども設定され、現在のエルフの基礎となる仕様・装備の充実が図られた。また、平ボディからスタートした荷台のバリエーションも徐々に充実し、バン、ダンプ、キャブバッククレーン車など幅広いバリエーション展開がなされていった。

1973年にはクラス初の直接燃料噴射式ディーゼルエンジンを搭載、翌1974年にはドライバーの快適性と作業性の向上を追求し、集配作業に最適なフラットロータイプ、1980年にはキャビンスペースの広いワイドキャブを発売。そしてフロント独立懸架式サスペンションを1990年に他社に先駆けて採用するなど、ユーザー視点から商品力の向上に努めてきた。

さらに、エルフはキャブのスタイリングやボディーカラーでも常に市場のトレンドセッターとなってきた。1968年に採用したブルーカラーは「エルフブルー」として親しまれ、1984年から導入したホワイトは、現在このクラスのスタンダードカラーになっている。

積載量2-3トンクラスのキャブオーバー型トラック市場における国内年間登録台数シェアで、1970年以来30年連続ナンバーワンを達成した(自販連及びいすゞ調べ)。2018年の登録台数は24,367台、シェアは41.6%を記録し、エルフは名実ともに小型トラックの代名詞となっている。

(日本自動車殿堂 研究・選考会議)